

2018年1月2日 OUWV 新年会
60周年記念行事実行委員会
実行委員長 60期宋宏樹

大阪大学ワンダーフォーゲル部 60周年記念行事

目次：

1. これまでの総括
2. 中央アジア(シルクロード)遠征 合宿報告
3. 台湾一周自転車合宿 進捗共有および抱負
4. 現役・OB 交流登山 第一回「丹沢」報告および第二回「摩耶」紹介
5. 今後の展望

1. これまでの総括

60周年記念行事の構想をはじめてから、早いもので2年になろうとしています。あっという間にすぎゆく時間の早さに、気づいたら締めくくりである秋の創部60周年記念祝賀会の場に立っているのだらうなと恐ろしくさえ思います。

とは言いましても、準備の1年目に対して、この2年目は非常に濃いものでありました。

まず昨春5月に代替わりが行なわれ、正式に60期がLeaderを引継ぎ、名実ともに60周年記念に向けて動き出しました。

8月4日に正式行事としては初めてとなる、60周年記念行事壮行会および中央アジア遠征激励会が、豊中キャンパスにて大々的に行なわれ、50名近い方にご参加いただきました。

8月20日からはいよいよ中央アジアシルクロード遠征が始まり、たくさんの方のお見送りやご声援のもと、10名31日間の旅が始まりました。詳細は後述しますが、大きな事故やトラブルもなく、全行程を無事に終えて9月19日に日本へ帰ってまいりました。

そして間を置かず9月23日に第一回現役OB交流登山「丹沢」が関東にて開催され、こちらも70名近くと非常に多くの方にご参加いただき、大変賑わいを見せました。

今は少し落ち着いていますが、裏では台湾自転車合宿や現役OB交流登山「摩耶」の企画が着々と推し進められております。またつい先日には、中央アジアシルクロード遠征の活動内容および、企業の協賛や現地交流の実施などの社会性の高さが認められ、大阪大学より体育会釜洞賞が授与されました。60周年記念行事が対外的にも評価された瞬間でした。

こうして振り返ってみると、忙しい日々ながら、これ以上ないぐらい充実したのものであったなと感じられます。節目の60周年という、このような素晴らしい機会に恵まれ、そしてご協力・ご声援くださる多くの方々に恵まれ、ここまでやってくることができました。関わってくださったすべての方々には感謝してもし足りません。本当にありがとうございました。

さて本紙では、いずれも中身の濃さを考えると、言葉足らずで伝わり切らないものではありますが、60周年記念行事の各企画についてそれぞれ簡単にまとめさせて頂いております。

ページをめくりながら、60周年記念行事およびOUWVへ思いを馳せて頂ければと思います。

60周年記念行事実行委員会
実行委員長 60期宋宏樹

2. 中央アジア(シルクロード)遠征

ソウルから関空に到着し、一ヶ月にも渡る長旅を終えた 9 月 19 日から半年が経ちました。今は 3 月からの台湾チャリ合宿に向けて準備が進んでいる段階ですが、私の方から、無事成功に終わりました中央アジア遠征のご報告をさせていただきます。

OB さんや現役部員に見送られながら関空を出発した私たち遠征隊は、上海から夜行列車に乗り、最初の活動拠点であるウルムチに向かいました。列車内では私たちに興味を持った現地の方々と筆談やジェスチャーを交えながら交流し、早速旅の醍醐味を味わうことができました。翌々日ウルムチに到着し、ウイグル族の人々が駅前に溢れかえる様子を目にしたとき、シルクロードに来たんだと強く実感しました。ここウルムチでは、クムタグ砂漠にてトレッキングを行いました。高温や沈む地面、重い歩荷などに悩まされましたが、SF 映画のような見渡す限りの砂漠が広がる世界に、皆心を奪われました。

国際夜行列車とバスを使って次に訪れたのはキルギスです。キルギスの首都ビシュケクでは、大学時代ワングル部に所属されていたという日本人オーナーのゲストハウスに宿泊し、キルギスの文化や自然など多くのことを教えていただきました。

ビシュケクから車で 6 時間走り、キルギス第四の都市カラコルに向かいます。キルギスのトレッキングでは、天山山脈の北に位置するこの街から、中間地点にあるアルティンアラシャンという小さな温泉郷で休息を取りつつ、標高 3800m にある“天空の湖”ことアラコル湖を目指しました。このトレッキングでは一日で 1400m 登る日もあり、疲労や高山病に悩まされるメンバーもいましたが、エメラルドグリーンに染まる湖と氷河を抱えた美しい天山山脈が私たちを出迎えてくれました。

キルギスでの活動を終え、再びバスに乗って三カ国目であるカザフスタン最大の都市アルマトイに入ります。ここでの最大のイベントは、カザフスタン日本人材開発センターご協力のもと開催された現地交流会です。日本文化の紹介として、スクリーンでの説明だけでなく盆踊りや書道パフォーマンス、たこ焼きの実演を行い、様々な面から日本文化を知ってもらうことができました。一方、彼らの通して語られる日本文化に、改めて日本の素晴らしさを再確認することもできた時間でした。開催前はどれぐらいの人に来てもらえるか心配でしたが、当日は学生を中心に 30-40 人ほど集まり、私たちの予想を上回る盛り上がりを見せました。また、市内から 30 分で登れる標高 3000m のメデウ峰や、“アジアのグランドキャニオン”ことチャリンキャニオンでトレッキングをし、日本では見られない大地形を堪能しました。

最後に訪れたのは中央アジア最大の国であるウズベキスタンです。ロシア色が強かったキルギスやカザフスタンから一転して、街の至るところにあるモスクや西アジア諸国に似た言語など、イスラム教の影響がはっきり表れ、中東への近さを感じさせます。ウズベキスタンでは、かつてティムール朝の首都として発展したサマルカンドを始めとする史跡の

数々を巡りながら、イスラム世界と東アジアを結びシルクロードの結節点の役割を果たしたこの地の歴史に思いを馳せました。そして、途中誰一人病気にならず、また一度も行程を変更することなく、無事日本に帰って来られました。

さて、今回の遠征にあたり、私たちは「還暦という廻りの年、世界を巡るは渡り鳥の如く」という趣旨を掲げ、特に「ワングル本来の意味に“還る”」こと、また「日本の源流に“還る”」ことを目標としました。この2つの観点から遠征を振り返ってみたいと思います。

まず前者は、ワンダーフォーゲルという言葉の意味に立ち返り、地に足をつけ各地を渡り歩くことを意味します。この『渡り歩く』ことの重要性を、私は陸路による数々の国境越えを通して感じました。平原が国土の多くを占める中央アジアでは、何もない草原に国境線が引かれていることがあります。一見普通の草原であっても、その国境を境に、言語も宗教も政治体制も経済状況も大きく異なるのです。国境の存在を強く認識し、その意味を考えさせられたことは、国土の四方を海に囲まれ、普段それを意識しない私たちにとって貴重な経験であり、これはこの地を渡り歩いたからこそ実感できたのだと思います。

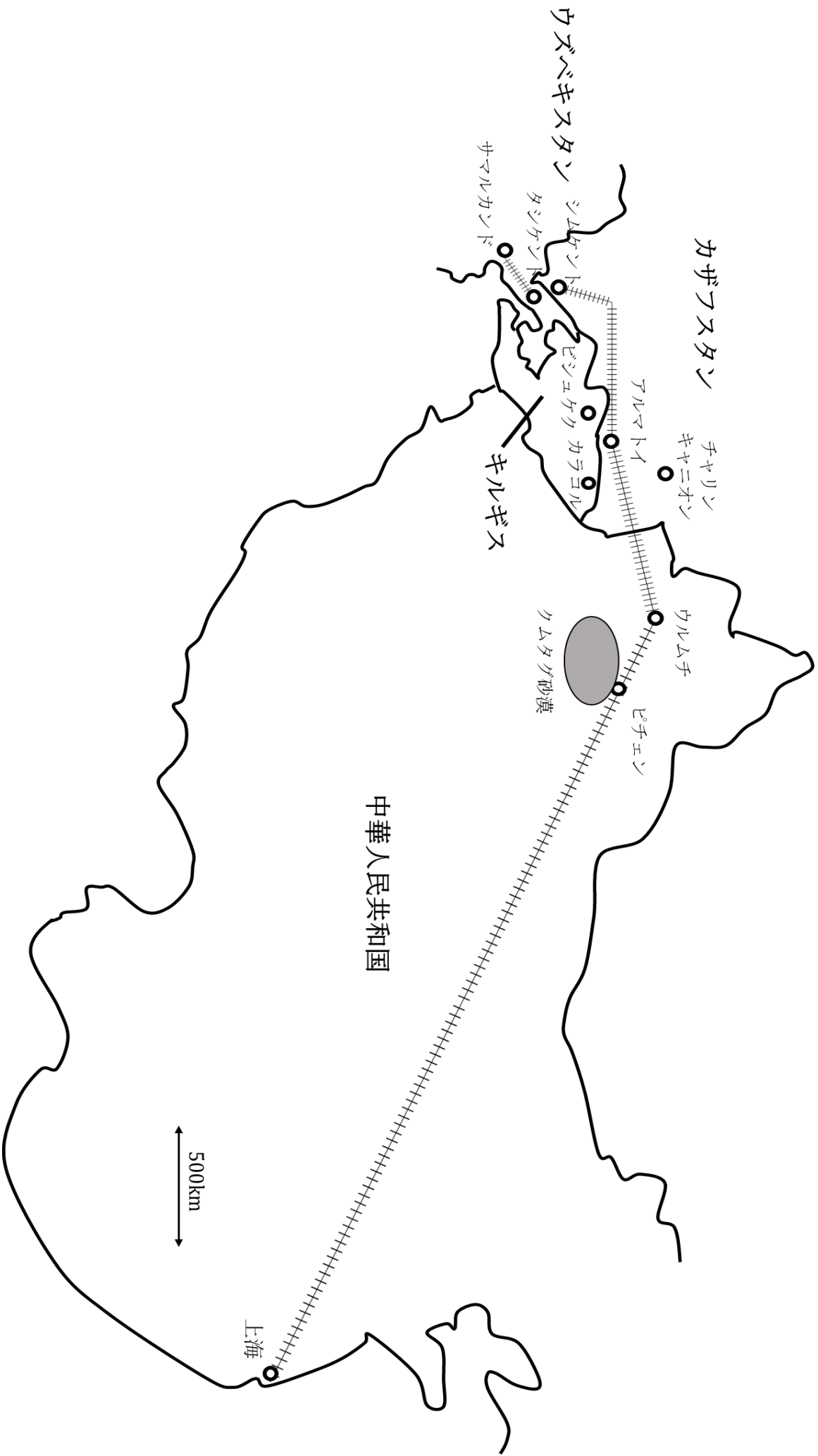
一方後者は、日本という国の根底にあるもの、つまり文化について見つめ直すことを意味しています。シルクロードと日本文化の繋がりを読み解こうとするとき、交易品が重要な鍵となるでしょう。例えば絨毯。絨毯と言えばペルシアが有名ですが、中央アジアでもまた、遊牧民の生活に必要な不可欠であったことから作られ、ウズベキスタンでは現在も手織で絨毯を製造する工房があります。この絨毯が日本に伝わると、ここでも絨毯産業がさかんになり、特に大阪・堺では一大産業として発展、現在でもカーペットの製造が行われています。また、ドライフルーツやワインなどに加工され、中央アジアの食文化には欠かせない果物であるブドウも、シルクロードを通して日本に伝わりました。このように、西洋やイスラムの文化が、中央アジアというフィルターを通して日本に伝わった事例は多く、私たちはそのルーツを現地の生活から感じ取ることができました。

一ヶ月という長期間にも関わらず、トラブルなく合宿が終わり、またこのように非常に実りある遠征になったのは、ひとえにOB・OGさん始め多くの方々のご支援・御協力によるものであり、遠征隊を代表して深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

遠征は終わりましたが、今後報告会や現役・OB交流企画を通じて、私たちが体感した「自分の足で渡り歩くことの面白さ」を皆さんにお伝えし、そして後世に語り継いでいく所存です。また、この遠征の様子はFacebook ページやワングル60周年記念行事ブログでもご紹介しておりますので、ご興味があればぜひそちらもご覧下さい。

最後になりましたが、まだまだ60周年記念行事は続いています。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

中央アジア(シルクロード)遠征隊
隊長 60期大前直輝



カザフスタン

チャリン
キヤニオン

ウルムチ

アルマトイ

ディチエン

クムタラ砂漠

キルギス

ウズベキスタン

シムケント

タシケント

カラコル

サマルカント

中華人民共和国

500km

上海

3. 台湾一周自転車合宿

台湾は日本と地理的に近く、歴史的にもつながりの深い地域です。また、中国語に加えて英語や日本語でのコミュニケーションも図ることができるなど、他の地域に比べて交流の可能性が広がります。数週間をかけて一周することで、台湾全土の文化や自然を肌で感じ、幾度とある現地の人々との接触の中で、日本と異なる台湾独特の情緒を間近に感じる事ができるでしょう。また、中国本土や日本も関わる台湾問題を現在に至るまで抱え、各地に少数民族の暮らしている土地でもあります。そこに長期間滞在することは、参加メンバーの国際的関心を高め、グローバルな感覚を養う事にも繋がります。

さらには、ワンダーフォーゲル部内において近年特に比重が大きくなっている自転車合宿の一つの集大成として、通常の春合宿ではなかなか実現の難しい長期の経験やノウハウを次世代に伝える事が期待できます。台湾での長期活動によって得られた生の情報は、次世代の糧となって阪大ワンゲルの活動の幅をさらに大きく広げてくれる事でしょう。

さて、念願の台湾一周自転車合宿まであと2ヶ月となりました。現在、私たちは資料作成の最終段階に突入し、また飛行機やホテルの予約も始め、いよいよ合宿が現実のものとなってきています。先日の秋合宿では、愛媛からしまなみ海道を経て、岡山に向かう自転車合宿を実施しました。メンバーは頼もしい走りを見せてくれ、また自転車活動に対する意欲も以前より増加した様子が見受けられ、ますます台湾一周自転車合宿が楽しみとなるような秋合宿でありました。

新年に入った今、トレーニングやミーティングなど、いよいよ本格的な活動が始まります。今まで支えてくださったOB・OGさんを始め多くの方々のご協力のおかげで合宿を行うことができるという感謝の気持ちを胸に、合宿に向けて万全の準備を続けていきたいと思えます。そして、無事に合宿を終え皆様に良いご報告ができるように頑張っていく所存であります。

期間とメンバー

2018年3月1日～21日（休養日、予備日含む）

60期 三原健 (P.L.)、澁谷祐太(S.L.)、金丸純也 (F.L.)

61期 山本晃平

62期 森本大智、若林大智

台湾一周自転車合宿
隊長 三原健

4. 現役・OB 交流登山

第一回企画「丹沢」総括 および 第二回企画「摩耶」開催のお知らせ

先日の関東での第一回企画「丹沢」では、本当にたくさんの OB・OG さんにご参加いただき、非常に有意義な時間を送ることができました。めったに顔を合わせない世代との交流は、双方にとってかけがえのないものとなったのではないかと思います。また現役、学内 OB のみならず、当日までにご協力いただいた多くの OB・OG さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。ご参加くださった方々、ご協力くださった方々、本当にありがとうございました。

OUWV は OB・OG さんとの強い繋がりが特徴だと思っています。これからも記念行事にとどまらず、こうした交流が長く続くように繋がりを大切にしていきたいと思っています。

そしてこのたび、第二回 OB 参加型企画「摩耶」の開催が正式に決まりましたので、そちらについても少しご紹介させていただきます。詳しい参加方法などは、先日本送りました OB メールまたは OB 会 HP よりご覧になってください。(申込〆切 1 月 31 日)

第二回「摩耶」は、兵庫県神戸市に横たわる六甲山系に位置します。標高は 1 千メートル弱でありながら、ほぼ海拔 0 メートルからのため登り応えのある山です。一方で、古くから人々が立ち入ってきたため十分に整備もされており、様々な景色も味わえる表情に富んだ山となっています。

下山後は懇親会を行ない、中央アジアの報告やちょうど遠征期間中の台湾チャリの経過紹介、そしてもちろん日々のワンゲル活動についてなどもお話できたらと思っています。

OB・OG のみなさまにおかれましては、お忙しい中かと存じますが、ぜひ足を運んでいただければと思います。

なお、大盛況のうちに終えられました第一回「丹沢」の様子は、ワンゲル 60 周年記念行事ブログや 60 周年 Facebook ページなどをぜひご覧になって頂ければと思います。

その他何かご意見、ご質問などございましたらお気軽にお申し付けください。

=====
期間：平成 30 年 3 月 3 日（土）

集合：①阪急王子公園下車、王子スタジアム前 8:10

②摩耶ケーブル下 9:30

③掬星台 12:30

下山後：新神戸または三宮にて懇親会を行なう。懇親会のみ参加も可能。

参加連絡先：58 期 OB 主務越智 (speculative-kuzanshi.joha568@ezweb.ne.jp)

=====

5. 今後の展望

ここまで各種企画をご紹介してきましたが、60周年記念行事はここが「折り返し地点」と言うこともできます。後半戦は、二大海外遠征企画の残り1つである台湾自転車合宿（3月1日～21日）、現役OB交流登山の関西企画（3月3日）と中部企画（夏頃）、我々が暮雪山荘の大改修行事（9月中～下旬）、そしてすべてが終わったあとに創部60周年記念祝賀会（秋頃）および60周年「霧」特別号の発行となっています。

前半戦もとても有意義な活動ばかりでしたが、後半戦も今から非常に楽しみなところがあります。

さて、そもそもの60周年記念行事のコンセプトは、60年のヒトの還暦にちなんで、『原点に立ち還る』、そして『新たな一歩へと踏み出す』ことにありました。

大阪大学ワンダーフォーゲル部の「今」を形作っているのはどうしても現役の活動中心ではあります。しかし忘れてはならないのは、そこには代々の先輩方が築いてきた「過去」の足跡があるのであり、それら過去があって今があり、そしてこれから先の「未来」に繋げるのだということです。このコンセプトには、そのような想いが込められています。

60周年の4本柱である中央アジア、台湾チャリ、OB現役交流登山、暮雪山荘大改修のいずれも、このコンセプトのもと、過去・今・未来の繋がりを模索しているものであります。

この『繋がり』こそを大切に、繋がった先のあらゆる方々に感謝の気持ちをもって、またその繋がりが脈々と受け継がれていくように、これからの60周年記念行事、そして大阪大学ワンダーフォーゲル部を盛り立てていく所存であります。

最後になりましたが、これからも60周年記念行事および大阪大学ワンダーフォーゲル部へのご声援・ご協力をよろしくお願いいたします。

60周年記念行事実行委員会
実行委員長 60期 宋宏樹